

ジャカルターバンドン間の 高速鉄道の現況と問題点

事務局

1

Jakarta-Bandung 高速鉄道は首都 Jakarta から西ジャワ州都で学術工業盛んで風光明媚、年中適温で住みやすい Bandung 間約 350km を、現在の運行時間（約 3 時間強）を 45 ～ 50 分に短縮するインドネシアで初めての長距離高速鉄道の建設である。

Jakarta-Bandung 高速鉄道は、2009 年頃にインドネシアの要請もあり、国際協力機構（JICA）の支援を得て、2014 年までに自費 350 万米ドルを投入し、F/S（実現可能性調査）を完了した。

ところが建設費用が膨大過ぎるとして、インドネシア政府は計画を断念中止した。

2

しかし、計画中断中に、突如 2015 年に中国が現れ、当時の国有国防相（リニ・ソエマルノ）が中国を支援し、共謀して、日本の F/S を盗用しそのまま、中国がイ政府を抱き込む甘い提案をして、日本から計画をかつさらってしまった。中国は、後出し提案、即ち、日本案よりも安く、完成もより早く、又インドネシアに財政負担を一切かけないと言う、甘い提案をし、インドネシアを抱き込み受注した。そのアクドイやり方に当時菅首相は強くイ側に抗議したのは当然であったし、その結果、日伊関係は冷え込んだ。

当時、日本の提案は 62 億米ドル（内 75% は年利 0.1% 40 年のテナーローン）で、完成引き渡しは 2021 年であった。一方中国側の提案は約 55 億米ドル（40% 中国所有権、60% イ中の合弁投資、中国の融資分は年利 2% で 40 年のローン）、2015 年に契約し、完成予定は 2018 年であった。これはジョコ大統領一期目の終わり、彼の成果として 2 期目再選を有利にするための完成時期でもあった。中国は又、このプロジェクトの建設がインドネシアの国家予算を枯渇させないことも保証していた。

3

中国の受注後の工事の進捗状況は、一部にはイ側の責任による用地買収やコロナ禍もあったが、大半は中国側の（技術経験不足と粗雑な工事、工事のやり直し、試運転時での人身事故、騒音環境破壊住民の家の損傷被害（控訴裁判中）、イ側が期待したインドネシア人の就労機会の無視、工事者の賄い人まで中国から連れて来る等自国の機会、利益優先策など）自分勝手なやりたい放題で、2016 年に始まった工事は遅れに遅れている。完成目標の 2018 年どころか 2022 年の習首席出席予定だった G20 会議にも間に合わず、2023 年 8 月に完成運行の予定となっている。

4

一方、総工事費は膨張し、2023 年初には 1 兆円超になり、4 月には 2,600 億円が不足となった。しかも、当初の約束は破られ、イ政府自身が債務保証することになってしまった。

5

完成しても、イ側の債務残高とその金利が膨大であり、工事が起こした弊害の保証問題、Bandung のターミナルテガル駅から市内まで車で約一時間要す、首都移転で当初予測した乗客数 6 万人/日が 3 万人と推計され、長年赤字が続く、ローンと高金利が返済できず、中国に乗っ取られるだろう等々の困難な問題が多発している。

6 インドネシアには高速列車が必要なのか？

このプロジェクトが口火を切って以来、Jakarta-Bandung 間の高速鉄道建設に対する反対の声が浮上している。交通活動家や研究者、企業、地域コミュニティは、ジャワ島外にインフラを建設するというジョコウィ大統領の目標の中で、この計画の優先順位に疑問を呈している。

ダルマニンティアス交通研究所の会長は、通常高速列車を建設する他の国々はモビリティ問題を検討するのが普通だと述べた。Jakarta-Bandung 線は実

際には既に鉄道が通っており、比較的良好な状態の有料道路もある。さらに、Darmaningtyasによると、高速列車を使用するのわずか45分の移動時間では、実際には何もメリットが無い。理由は、ジャカルタとバンドン両市内の交通渋滞がひどく、人々が駅まで来て電車に乗るのが難しい現実がある。バンドンへの高速列車に乗るために駅に行くのと、ジャカルタからバンドンへ直接に自分の車で行くのと同じ位の時間である」と。

7 最新4月19日じゃかるた新聞記事：

インドネシア・中国高速鉄道（K C I C）が進めるジャカルターバンドン高速鉄道で、予算超過の追加融資を受けるには、インドネシア政府による債務保証を中国側が要請していることがわかった4月14日、地元メディアが報じた。

ルフット・パンジャイタン海事・投資調整相はこれに難色を示し、中国側には、国家予算の投入には手続きに時間がかかるため、「インフラ事業の国営保証会社プンジャミン・インフラストラクチャー・インドネシア（P I I）を通じて行うことを提案した」と説明した。

しかし、国会第6委員会のアミン・アク議員は、「国家予算を投じると他のインフラ開発予算が無くなる。政府は港や鉱業、新首都のヌサンタラ建設などより重要な開発計画がある筈だ」とし、「(高鉄は)魅力的なビジネスではない」と批判している。

追加融資の金利は政府要求を上回る、3.4%で既に中国側と合意し、償還期間は30年となった。

一方、K C I Cは政府に対し50年としていた独占営業権を80年に延長することを要望している。勿論、新型コロナ禍による旅客需要減少や工期延長、土地収用問題などが背景にある。

E ジャカルターバンドン高速鉄道債務金利3.4%、中国の債務の罟？

インドネシアは、Jakarta-Bandung 高速鉄道事件を教訓として、成果のない、最終的には中国の債務

の罟に閉じ込められる恐れのあるインフラプロジェクトに取り組まないようにしなければならないと言われています。

Indefの経済オブザーバー、リサール・タウフィクラマン氏は、インドネシアが債務不履行と宣言された場合、この高速列車の管理は中国に引き継がれる可能性があるとして述べた。

以前、海事投資調整大臣のLuhut Panjaitanは、中国は高速鉄道プロジェクトの債務利息を3.4兆ルピアの総融資の8.3%に減らしたいだけだと述べました。

E 中国の債務の罟に巻き込まれた？

政府は、ローンの利息が2%で40年のテナーである元の資金調達提案に戻るために、中国へのロビー活動を強化することをアドバイスします。

インドネシアのリサール・タウフィクラマン氏は、「スリランカと同じ状況を経験させないでください。インド洋の島の南海岸沿いに位置するハンバントタの国際港は、10億ドルの債務と引き換えに中国に引き継がれました。中国は港の85%を所有しており、99年間港のリースをポケットに入れる権利があります。インドネシアをそのようにさせないでください、インフラ投資は生み出しません」と彼は言いました。

「スリランカとインドネシアの協定の条項は、企業間であっても大きな違いはあり得ないからです」とリサールは続けました。一部のオブザーバーは、投資を受けている国が返済できない場合、中国政府などの貸し手がコンセッション（経済的または政治的譲歩を行うことができる）、いわゆる「債務の罟」について警告しています。



事務局より

宮本和佳氏の海外現地レポートを紹介します。

日本で働くインドネシア人が増加中なのは何故？ 直接聞いてわかった理由と日本企業に求めること

【2022年10月26日 インドネシア】

1. 日本人で働く外国人・増加率2位のインドネシア

厚生労働省の「外国人雇用状況の届け出状況」によると、現在日本で働いている外国人は約166万人。その内、インドネシア人は5万人程ですが、前年比の増加率がベトナムに次いでインドネシアが2番目に高く急増しています。どこの都道府県にインドネシアの人々が多く住んでいるかを調べた結果、第1位は愛知県、2位は東京都、3位は茨城県でした。なお、人口実数と人口に対する割合の両方でどちらも10位以内にランクインした都道府県は、茨城県、群馬県、愛知県、静岡県です。いずれも工業地帯があり農業も盛んなエリアです。機械系エンジニアや農業・漁業分野でインドネシア人の方々が働いていることが分かります。

2. 日本で働くインドネシア人が増えている理由は？

大きな要因の一つとしては、1993年に開始された「外国人技能実習生制度」の活用です。

この制度は、当時「国際貢献」というテーマの下、狼煙を上げました。日本の技術や文化を持ち帰ってもらい、自国の産業に還元することが両国に課せられた使命でした。その後徐々に「日本の労働力の確保」という意味合いが強くなり、いびつも起き、様々なルール改変が行われ今に至ります。2019年4月からは、『特定技能』という人手不足の解消を目的とした新たな在留資格も誕生しました。

今までも日本に働きにくる外国は、ベトナムや中国などが大きな割合を占めていますが、インドネシア

現地の送り出し機関（現地で日本語教育を行い、日本企業へ送り出す準備をする学校）で勤務している人の話では、最近では採用の需要拡大や国内の平均賃金が高くなった影響で、ベトナム人や中国人の採用競争が激化しており、次のターゲット国としてインドネシアに狙いを変える企業が増加傾向にあるとのことでした。

日本で働くインドネシア人は増加しているが、インドネシア人が労働する国別の順位では日本は19位と決して高くはありません。なぜなら、日本企業が提示する給与は、他国と比較して特段高いわけではなく、日本よりも給与の高い国々に行くインドネシア人も多いからです。より給与の高い中東やドイツ、ポーランド等で多くのインドネシア人が働いている現状です。

3 なぜ日本へ？実際にインドネシア人に聞いてみた

インドネシア人の友人であるハフィスさんに直接聞いてみました。

Q：技能実習生を中心に日本で働くインドネシア人が増えていますが、それはなぜでしょうか？

A：ハフィスさん：まずは給料の高さが一番だと思います。インドネシアの首都・ジャカルタでも最低賃金はたった月に約32,000円です。スマランやジョクジャカルタといったインドネシアの地方都市ではその半分の約16,000円の月給しか貰えません。

技能実習生や特定技能生として日本に行けたら、もっと高いお給料が貰えますね。職種にもよりますが、1か月間で約90,000円～130,000円を貰えます。貯金して帰国したらお金持ちになります。インドネシア人では、特に貧しい生まれの方が一攫千金を目指して日本へ行くケースが多いですね。

Q：なるほど。他に何か日本を選ぶ理由がありますか？

A：ハフィスさん：日本にしかないメリットでいうと、旅行や食べ物、文化ですね。インドネシア人に限らず、日本の自然、特に富士山や雪・桜は美しいと世界中の誰もが知っています。

日本の美しい自然や景色を見に行けるのは嬉しいですね。日本で働けば、東京、京都や大阪など日本

の有名な場所へも安く行けます。わざわざインドネシアから日本へ旅行するとすごくお金も時間もかかってしまうし、旅行だと滞在期間が短いので、あまり深く日本文化を体験することは出来ません。あとは、日本人の優しさ、正直なところ、労働倫理や規律、約束を守る事などもインドネシア人の間では有名で、そのような日本文化を直接感じたい人は多いはず。

Q：日本語習得はキャリアアップのチャンス—語学の面で不安などはないですか？

A：ハフィスさん：確かに日本語は非常に難しいですが、日本語を勉強出来る事は僕にとってすごく良いことです。インドネシアはフィリピンと違って、英語が母国語じゃないですから。どのみち外国語を覚えるとなると全て一から覚えなきゃいけない。また、インドネシアに拠点を持つ日本企業はとて多いので、日本語を勉強することは将来のキャリア形成にも大きな強みになると思います。日本語がある程度話せるだけでも、インドネシア現地の日系会社で働く時にお給料などの交渉が出来たりしますから。

Q：日本企業に求めるのはムスリム文化への理解—日本に魅力を感じてもらえるのは嬉しいですが、インドネシア人と一緒に働く時は日本人もインドネシア人のことをしっかりと理解する必要がありますよね。日本で働く上で勤務先に理解してほしいことはありますか？

A：ハフィスさん：インドネシア人は大体ムスリムだから、お祈りは1日5回しなければいけません。1回目は、4：30、2回目は12：00、3回目は15：30、4回目は18：00、5回目は19：00からお祈りをします。3回目のお祈りは出来るかどうか微妙でしょう。勤務時間中にお祈りをするようになりますから。時間になったらお祈りをするのを認めてくれる仕事であれば、インドネシア人にとっても非常に働きやすいと思います。

あとは、ヒジャブをかぶっている女の人では応募できる職種が限られてしまっているのが現状です。ホテルのレセプションなど人前に立つ仕事だと、日本ではヒジャブをかぶりながら仕事をするのは敬遠されることが多いですから。

そうした文化的背景を理解してくれて、きちんと

制度にも取り組んでくれる会社であれば、インドネシア人にとって非常に働きやすい環境ですね。

Q：多様な価値観の人が働ける職場づくりを—日本も多様な価値観やバックグラウンドを踏まえた職場づくりにもっと本格的に取り組んでいかないといけないですね。どんな職場環境が必要だと思いますか？

A：ハフィスさん：日本で働きたいインドネシア人はたくさんいるけれど、勤務地の選択肢はもちろん日本だけじゃありません。今後、日本がインドネシアの方々を選ばれ続けるためには、多様な価値観の人が働ける取り組みが大事になってくると思います。あとは、やはり日本人は残業が多いですよ。オーバーワークによる過労死もよく聞きます。残業ばかりの職場は嫌だから、という理由で日本では働きたくないと考える人も少なからず居ます。残業や労働時間についてのルールの徹底が必要だと思います。あと、給料のことは事前にしっかりと知っておきたいです。ボーナスがあるのかどうか、1年間何回もらえるのかなども入社前に知っておきたい点です。

【読後のまとめ】

インドネシアの方々日本経済に貢献してくれているのは間違いのない事実です。今後も、日本は労働人口が減り続けていくため、外国人の方々の労働力は必須になります。

そうした中で今後外国人の方々に関わる人も多くなります。お互いを尊重しあい、歩み寄ること。

まずは相手を知ろうと努力すること。こうした基本的なコミュニケーションは言葉で言うのは簡単ですが、実際に行うとなると、日本人同士でも簡単ではありません。失敗はつきものだと思うので、日々の中で意識し続け、学び続ける必要があると感じました。



インドネシア全州踏破を目指して 『リアウ諸島州 大ナトゥナ島編』

ジャカルタ支部長
坂口 広之 (1988年卒)

2020～2022年のコロナ流行期、現在の居住地（私の場合バンドン）からの移動を制限されていた期間も長かったためこの期間全く国内旅行が出来なかったため、今回は少し前2016年リアウ諸島州大ナトゥナ島旅行について書きます。

インドネシア最北端の島といえばアチェ沖に浮かぶウェー島（+最西端）、そしてフィリピン・ミンダナオ島近くにあるミアングス島も北緯5～6度ですが、この大ナトゥナ島も北緯3～4度と国土の大半が南半球にあるインドネシアの中では極めて北に位置します。近年ナトゥナが注目されているのはインドネシア国防のホットな最前線であるからです。ナトゥナ諸島周辺海域は豊富な埋蔵量の天然ガス・石油ガス・原油で有名ですが、一方中国が一方的に主張する九段線とインドネシアの排他的経済水域の一部がここで重複しており、中国漁船の違法操業・中国公船の侵入事件がたびたび起きているため、インドネシアはこの地域の空軍・海軍力を段階的に増強しています。

7年前の旅行の際はバンドンからCitilinkでまずリアウ諸島州の州都バタムに飛び（飛行時間約1時間50分）一泊、翌朝のWings Airで大ナトゥナ島ラナイに向かいました（飛行時間約1時間半）。ラナイ空港到着後まず市内のNatuna Hotelにチェックイン、そして昼食はSisi Basisir レストランへ。そこで予期

せず念願のナトゥナコノハザル (Presbytis natunae) に遭遇。是非見たかったナトゥナにしか棲息していない絶滅危惧種にすぐ会えて触ることが出来、幸先の良い旅のスタート。初日残された午後半日は島南部に向かう。



Presbytis natunae

1. Pantai Batu Kasah この島の大きな特徴は、島のいたるところに巨大な石群があること。写真スポットにふさわしい壮観な光景が多い。
2. Pelabuhan Selat Lampa (Kab. Pulau Tiga) 島最南端 Bukit Tekol を通過し Pelabuhan Selat Lampa に到達。ここではランパ海峡を挟んで沖合にある3つの島を一望することができます。



Wings Air & Gunung Ranai



Pantai Batu Kasah



Kab. Pulau Tiga



初日の晩御飯

2日目は前日と逆に島北部を巡る。訪れた場所順に

1. Masjid Agung Natuna 2009年完成の比較的新しいモスクで、ラナイ山を背景に建つ姿はとても美しい。大型建造物が好きな私は、各旅先にある一番大きなモスクは必ず見に行くようにしています。
2. Batu Kapal 二つの超大巨石が並んでいるのですがどちらも長細い形をしており、うちひとつに船の舳先のような目立つ突出部があるためこのように呼ばれています。
3. Batu Sindu 巨石群を見下ろす丘 (Bukit Senubing) から沖合に浮かぶセノア島も見ることが出来る。ここにはナトゥナ海洋安全監視センターの見張り塔もあります。
4. Batu Rusia 設置された説明版には次のようなこの石の名前の由来が書かれています。『1941～1952年のある時、ロシアの船がセノア島沖で座礁し女性3名を含む40人の乗組員が泳いで大ナトゥナ島東部 Sepempang に上陸、のちに Batu Rusia と呼ばれるこの巨石の元で休んでいたものの、一向に救助が来なかったため石に

錨の印とUSSRの文字を書き残し、助けを求めて徒歩でラナイに向かった。』

5. Pulau Senoa Sepempang村の船着き場で漁師と交渉しセノア島まで連れて行ってもらい、しばしシュノーケリングを楽しみました。
6. Pantai Sahi 干潮時には沖合の Pulau Sahiまで徒歩で行けるようになり、地元の子供たちが浅瀬に現れるタコなどを捕っていました。
7. Desa Teluk Buton 大ナトゥナ島最北端にある漁村。船着き場から北の海を眺めれば左側に Pulau Panjang、右側に Pulau Pendekを見ることが出来ます。
8. Alif Stone Park Sepempangまで戻りこの日最後の目的地 Alif Stone Parkに立ち寄る。どのようにして許可を取ったのが分かりませんが、個人が海沿いに転がるたくさん転がっている巨大石の一部加工し、石の上から石の上を渡り歩ける歩道を設置したり、巨石間の隙間スペースを利用した宿を作ったりしています。自然保護の観点からはどうかと思いますが、次来た時はこの他にないユニークな巨石ホテルに泊まろうと思っています。

3日目は観光時間がなく、午前のフライトで大ナトゥナ島を後にしました。

ナトゥナ諸島観光情報はまだ少ないため、この簡単な旅行記が今後同島を訪れる方の参考にもなると思い、立ち寄った場所のほとんどを紹介しました。

赤道に近い低地でどこもかなり暑かったことが記憶に残っていますが、島のあちこちにある多数の巨大石群はとても魅力的で、今後また是非再訪したい場所のひとつです。



Masjid Agung Natuna 全景



咲耶会本部 事務局のご紹介

咲耶会副会長・事務局長
井上 泰子 (E-1967年卒)

創立100周年の2021年3月、外国語学部の引っ越しに伴い、咲耶会事務局も箕面市の粟生間谷から船場東の新キャンパスに移りました。移転後も、様々な面でコロナ禍の影響を受けたこの2年余でしたが、咲耶会の本部事務局として定着してきた感があります。



新キャンパス一階正面玄関を入るとまっさきに目に入るのが、25言語のメッセージを刻んだ巨大な大理石の石柱です。石柱の裏側には、1945年3月の大阪大空襲で奇跡的に焼け残った旧上本町学舎の図書館の鉄扉が埋め込まれ、100年の歴史を感じさせます。



石柱を見上げそのまま左へ、エレベータホールの斜め向かいに位置するのが、咲耶会の事務局です。旧箕面キャンパス時代には、広々とした自然豊かな環境の中、E棟1階に3室をいただき、収納スペースは充分でした。当然のことながら、膨大な資料の整理が喫緊の課題となり、例えて言えば、郊外の戸建て住宅から都心のマンションに引っ越す際の断捨離にも似た思いでした。創立100周年の母校にとって、歴史的価値のある資料も多く、過不足なく残すという作業は、発掘の楽しみがありつつも責任を感じるものでした。



新事務局の利点は、一つの建造物の中で、先生方や学生さんと生活を共にできるということです。アクセスが便利になったお蔭で、訪ねてくださる卒業生

やクラス会等で見学に立ち寄られるケースも増えました。とりわけ、旧上本町学舎で学生生活を過ごされた世代にとっては、時代の先端に行く新キャンパスの施設は驚異的であるようです。南十字星会の皆さんも、いくつかのグループが訪ねてくださいました。



同窓生の皆様から寄せられた浄財により設置された「大阪外国語大学記念ホール」は、廊下を挟んで向かい側。ホールに隣接する坪庭には、上本町から箕面間谷キャンパスを経て、はるかな旅路の末に辿り着いた「烈士の碑」が安置されています。母校の名を冠するこのホールは、様々な会合に活用され、同窓会活動の拠点にもなっています。今年の咲耶会総会は、母校の創立記念日にあたる11月11日(土)に、この記念ホールにて開催する予定です。ぜひこの機会に、見学を兼ね、お越しください。

咲耶会事務局は、毎週月曜日と木曜日の10:00～16:00に開局しています。会員、先生方や学生さん、咲耶会海外・国内各支部、大学当局、関係諸機関等への対応、各種イベントの取り組み、広報活動等、同窓会運営に関する業務は多岐にわたります。事務局長は井上ですが、3名の有能なスタッフに支えられています。20年近く事務局を支えてくださった西田貞子さんが3月末に退職、後任に犬飼祐子さんを迎え、天野豊子さん、大熊美紀さんの3名で、種々の業務を担当してくださっています。明るく、親しみやすい雰囲気が咲耶会事務局の持ち味です。これからもご支援、どうかよろしくお願い申し上げます。



咲耶会事務局 2023年4月



2023年新歓パーティの様子



SAKUYA
KAI



2023年新歓パーティ役員



咲耶会展示画像 2022年夏まつりにて

アリムルトポ将軍の韓国への苦言

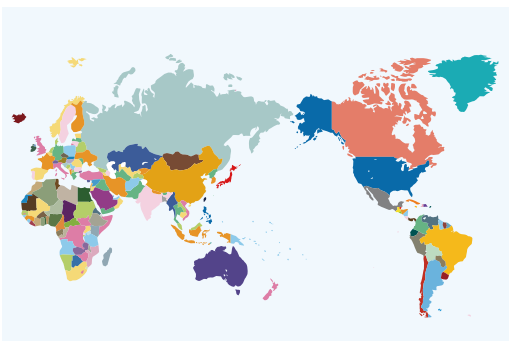
事務局

アリムルトポ (Ali Moertopo) 将軍 (1924～1983) はインドネシアの著名な思想家、軍人、政治家である。インドネシアの独立戦争を戦い、人望があった歴代の重鎮の一人で、スハルト政権の政治経済外交を支えた。

その人柄を知る日本の関係者も、将軍に親愛尊敬哀惜の念を持っている人が多い。

話は、1973年マニラでの安全保障国際会議 (Asia Security Council) において、韓国代表が「日本帝国が30年間も韓国を侵略した為に、韓国は防衛体制が確立出来なかった。その責任は日本にある」と盛んに日本の批評や悪口を繰り広げるような演説をした。

インドネシアの独立戦争を戦って、自ら独立を勝ち取ったアリムルトポ将軍は、「韓国人は日本の庇護の下で日本人として生きて来たくせに、日本が戦争に負けたとたん、戦勝国だと嘯き、また、独立戦争を戦ったと嘘を言う。朝鮮人は自ら戦わなかつたくせに、責任を日本に押し付けるとは何事か。もし、アジアに日本と言う国がなかったと仮定して見よ。1899年の義和団事件以来、ロシアは満州に大軍を駐在させ朝鮮を狙っていた。朝鮮が戦わなかったから日本が戦ったのだ。これが日露戦争だ。朝鮮は日本が負けると思って裏でロシアと繋がっていたではないのか。もし、日本が戦わなかったら、朝鮮はロシアの領土になっていたことには間違いなかった。ロシア領になっていたのは朝鮮ばかりではない。支那も北半分はロシアが支配し、揚子江以南はイギリスとフラン



スが支配したであろう。遅れて登場したアメリカはどうやって支那大陸に食い込むかを企んでいた。

そもそもアジア混乱の遠因は支那にある。支那はアヘン戦争でイギリスの不当な要求に屈して簡単に降伏してしまった。その時支那は、何故徹底して戦わなかったのか。イギリス、フランスを大陸に引き込んで蒋介石のように戦えば、勝てたかも知れない。自ら中華と誇る支那が不甲斐なく負けたから、日本が大東亜戦争を戦わざるを得なかったのではないのか。この責任は支那にある。

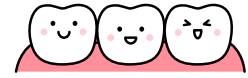
そもそもアジアで戦ったのは日本だけではないのか。もし、日本と言う国がなかったら、アジアは半永久的に欧米植民地の勢力下に置かれていたのではないか。戦後、アジア諸国は日本から経済、技術、資金で如何に多くの支援を受けたのか。

また、別の話として、韓国代表は「無法国家の隣国のために、酷い目に遭っている。叶うことなら、自分たちが引っ越すか、日本に地球上の別の場所に引っ越してもらいたい」と言い出した。

アリムルトポ将軍、「ほう、そんな時は是非とも貴国と我が国と入れ替えて欲しいものですな。もし、我が国が日本の隣国であつたら、いち早く工業国家としても繁栄し、今の何倍もの経済発展を遂げていただろう。強大国の中国やソ連から守って貰って、こんな有難いことはない。国語普及の為の教育援助もして貰えるし、技術者だって隣国の方がやり易い。お隣同士だからこそ貿易量も増える。いやあ、出来るものなら日本のような国のお隣さんになりたいものだ」と。

大東亜戦争の真実と日本のお隣になりたいと言ったことに対し、韓国代表は何も言えなかったそうだ。その話を聞いた日本人はアリムルトポ将軍に大いなる恩義を感じたという。

8020 運動をご存知？



8 020 (ハチマルニイマル) 運動をご存知でしょうか？平成元年 (1989年) から当時の厚生省が推進している「80歳になっても20本以上の自分の歯を保とう」という運動です。この運動は「生涯、自分の歯で食べる楽しみを味わえるように」との願いが込められています。人生100歳時代の今、自分の歯を保つことが如何に大切かは高齢者になってから実感します。

歯 は人生に一度生え変わります。乳歯から永久に変わり始めるのは6歳頃で、その永久歯が抜けると今度は「入れ歯」や「インプラント」「ブリッジ」での対応となります。先輩の一人がかつて「自分の口内には自動車が入っている」と言っていたが、「インプラント」治療などは自由診療で大変高額です。

テ レビでも歯周病のリスク等が喧伝されています。確かに口から健康が壊れてゆくのですが、若いうちは歯の大切さを認識しません。30代、40代前後で部分入れ歯や総入れ歯の人が約60万人もいます。喫煙の健康への影響は、既に広く知れ渡っていますが、百害あって一利なしの「喫煙習慣」はその中毒性故に、禁煙するのは難しいものですが、賢明な人なら即中止すべきです。一方、「喫煙」しなくても歯のケアをしないと、高齢になって本当に困ります。

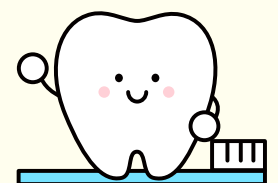
最 近、人生における歯の重要性から後期高齢者用の歯科検診制度が採用されています。「癌」と同じように、歯も重症になる前の早期発見・早期治療が重要です。

加 齢に伴って気力・体力などの心身の活力が低下した状態を「フレイル」と言います。フレイルとは、健康状態と要介護状態の中間地点で、単に身体的に弱った状態だけを指すのではなく、心の状態 (うつ等) や認知機能の低下、閉じこもりなど社会性の低下をも指します。

口 の機能の衰えが全身の衰えのきっかけになります。高齢者のゴルフ・プレイヤーは加齢に伴って、ドライバーの飛距離の低下を実感しますが、これは加齢により筋力が半分以下になっているからです。歯や口内機能の低下 (オーラルフレイル) が、フレイル状態を引き起こす原因だとわかっています。オーラルフレイルは「滑舌の悪化」、「食べこぼしやむせが増える」から「かむ力が減る」「舌の運動量が減る」「食べる量が減る」へと進行し、「飲み込むことが困難になる」「誤嚥性肺炎を起こす」につながります。

口 内のトラブルが全身の健康に影響を及ぼす事実を若いうちから知っておくのは大切な事です。「サルコペニア」 (加齢にともなって、筋力が減少し、身体の機能が衰える)、「ロコモティブシンドローム」 (足腰の関節、筋力が弱り、転倒・骨折が起こる)、「認知症」 (かむ力の衰えから脳への刺激や血流量の減少で認知症発症へのリスクが高くなる) を止める必要があります。

若 い人には、高齢になってからの自分の歯の有難さを知ることは難しいですが、敢えて「老婆心」から「オーラルフレイル」について紹介しました。





記念撮影



懇親会一コマ



新宿住友ビル1F・大パノラマ

東京支部懇親会に参加して

3年ぶりに東京支部懇親会に出席。以前は工事中だった東京駅・八重洲側も丸の内側もすっかり完成していた。新宿の高層ビル群に改めて驚きながら都庁近くの新宿住友ビル47階東京住友クラブ会場へ。

新装なったビルの1Fにはジュネーブ湖を描いた大パノラマ映像が来場者の目を引き付けていた。

当日の出席者は20数名、矍鑠たる大先輩の梶谷昌博氏（56年卒）、退官された松野明久先生（名誉教授）、長期駐在から先年帰国した内原氏（64年卒）、

元企業戦士の面々そして女性が3名。大阪からは宮崎氏（65年卒）、小原氏（63年卒）が参加し、近況報告や情報交換に花を咲かせた。大阪からの2人は、終了後に近くの明治神宮に参拝し、都会のど真ん中の神聖な森林で大自然を満喫されたとか。

益々発展しているこの首都圏の一極集中状態が織りなす大人数に感心する一方、日本列島ではやはり二極が良いのではとの思いを抱きながら、人波でごった返す東京駅を後にした。（K.O）

協賛者

協賛金をお送りいただき有難うございました。

ご協力に感謝申しあげます。(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1948 山口 一史
1955 梶谷 敬二
1955 石井 義人
1956 島崎 忠彦
1956 榊谷 昌博
1957 西 俊彦
1957 渡部 徹
1958 磯浦 美恵子
1958 河上 宗弘
1958 山口 寛
1958 寺嶋 正直
1959 小黑 一
1959 丹羽 宏造
1960 西田 達雄
1960 滝本 佳一
1960 林 喜久雄
1961 岩井 俊之
1961 植田 正博
1961 木下 一
1962 石川 恵二
1963 小原 一浩
1963 前田 比佐夫
1963 大田中 実
1963 堀田 実
1964 小西 新平

1964 澤井 佳一
1964 苗村 和男
1965 嘉味本 正保
1965 宮崎 衛夫
1965 近藤 勲
1965 森田 義典
1965 西川 哲朗
1965 有井 晟
1966 井上 久生
1966 扇谷 竹美
1966 鈴木 安夫
1967 和田 肇
1969 本田 正伸
1971 森 和夫
1971 野崎 淳一
1973 米田 洋一
1974 阿部 直子
1974 坂口 隆史
1975 勝原 紀美代
1975 丹羽 慎吾
1975 辻本 雅洋
1976 廣澤 義幸
1977 大角 幸彦
1978 中村 由美
1978 藤井 眞澄

1979 大野 泉
1979 竹田 啓治
1980 松本 雅子
1980 片山 信英
1981 下野 正一
1981 道幸 静児
1981 南野 忠之
1982 北野 忍
1983 松尾 和城
1984 宮崎 晃
1986 墨 史朗
1987 高岡 容子
1994 竹前 望美
1995 坂元 祐
1996 亀山 恵理子
1998 荻野 和子
2003 藤田 裕子
2016 世羅 美咲
教員 松野 明久
横田 義明
広瀬 加代子
篠崎 裕二
勝田 英紀
西川 まさき
赤橋 由美

沢地 一夫
天野 正昭
田中 正義
田中 千昌
堀川 晃一

※敬称略/卒年不明分は記入していません。

～協賛のお願い～

★南十字星会は会員の浄財の「協賛金」で運営しています。一口¥2,000で一口以上です。

- ①ゆうちょ銀行の振込取扱票の通信欄に「卒業年」と「Emailアドレス」(有れば)をご記入下さい。
- ②加入者(南十字星会)負担の振込料金の軽減を図るためにATMでの支払にご協力下さい。

振込先:「ゆうちょ銀行」
00900-8-212262
(加入者名:南十字星会)

投稿・寄稿のお願い

「南十字星」会報誌に掲載する原稿を随時募集しています。インドネシアに関すること、日頃思っていること、旅先での経験、人物の思い出等、内容は自由です。



事務局からのお願い

①人物アーカイブズ作成企画へのご協力

第11期生・烈士の碑訪問(P15-16)で例示したような各期の人物アーカイブズを募っています。事務局へお問合せ下さい。

- 事務局 問い合わせ先(小原 一浩)

TEL 072-366-1113

E-mail xpmjks2023@gmail.com

②グループメールへ参加

東京支部でグループメールを利用して情報交換を行っています。インドネシアその他の情報が発信されていますので、是非参加して下さい。

- 申込先・問い合わせ先:(大角 幸彦氏)

E-mail ohkado@live.jp

会計報告書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	305,146	事務用品購入費	29,366
協賛金 (R4/4/1～/R5/3/31)	293,000	会報第28号製作費(1,000部)	116,450
		ゆうちょ銀行払込料	13,692
		会報送付料 (郵送料&クロネコDM代)	158,513
		合計	318,021
		次期繰越金	280,125
合計	¥598,146	合計	¥598,146

令和5年 3月31日 南十字星会会長 小原 一浩

編集後記

☆2023年もロシアのウクライナ侵攻が続いています。正義が勝つことを祈りますが、いずれにせよ人間の殺し合いと街や文化の破壊です。一刻も早く戦いのない平和な地球を取り戻したいものです。

☆世界はやっとコロナ禍から元に戻りつつありますが、「ドンパチ」や線状降水帯を地上に載せて宇宙船地球号はすいすいと自転点、公転を重ねています。人間の活動により、大気中でたった0.04%存在するCO₂(二酸化炭素)の増加が地球の温暖化を引き起こしています。

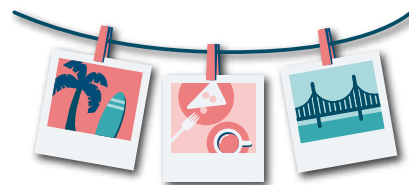
☆一方、G7(ジーセブン)、G20(ジートウエンティー)、グローバル・サウスなど国際間の連携も進んでいますが、国と国との関係など人間社会は複雑怪奇です。

☆ジャカルターバンドン間の高速鉄道の件に関連して、同じような事例がタイ国でも起こっているようです。力を頼りにし、強権的に自説を相手に押し付け、国際的な約束を反故にし、「確信的利益」を強弁する国の独裁指導者は本当に厄介な存在です。

☆会報29号の制作にあたり、事務局として榎谷昌博氏に参画頂き、大変お世話になりました。また、たくさんの情報発信有難うございました。

☆協賛金の減少傾向により南十字星会報(第30号)の発行が危惧されます。本会の趣旨にご賛同いただきご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

★天皇・皇后両陛下が令和5年6月17日から23日までインドネシアを訪問されます。両陛下が国際親善を目的として外国を訪問されるのは初めてであり、画期的な事です。これを機会に日本とインドネシアとの友好関係が更に深まることをご期待しています。



(編集人)

2023年(令和5年)8月発行
南十字星会(大阪大学外国語学部インドネシア語専攻同窓会)
事務局 〒589-0007 大阪狭山市池尻中1-28-1 小原方
電話:072-366-1113
E-mail: xpmjsk2023@gmail.com
編集協力 吉崎企画